

ディーパーヴァリーについて

2020年11月11日(水)～11月15日(日)

光の祝祭のディーパーヴァリーは、アシュウィンとカルティクの月(西暦の10月と11月の間)の数日間、インド全土で祝われます。この祝祭は、ゴーヴァトウサ・ドウワダシー、ダンテーラス、ナラク・チャトゥルダシー、そしてディーパーヴァリー自体の四つの祭典で構成されています。

サンスクリット語ディーパーヴァリーは、「ランプの列」という意味です。祝祭の間、ディーヤーと呼ばれる小さな焼き物のランプがともされ、神聖な光の勝利を表します。ディーパーヴァリーは内側の光、すなわち大いなる自己の光、すべての創造物を照らす光を祝うものです。

ゴーヴァトウサ・ドウワダシー

2020年11月11日(水)*

ディーパーヴァリーの祝祭の初日は、ゴーヴァトウサ・ドウワダシーです。それは、この日の夕方、太陽が沈むころに乳牛と子牛にプージャーをするインドの伝統です。牛はインドで最も神聖な動物の一つと考えられており、牛にプージャーをすることは、すべての動物や自然に存在する神聖な力をたたえる方法です。プージャーの前には牛舎を清潔にしてマンゴーの葉と花で飾り、ランプをともします。人々は、牛の額に香油、ビャクダンの練香、クムクムを付け、牛にアーラティーを行い、お菓子を牛に与えて祈ります。

*インドでは、ゴーヴァトウサ・ドウワダシーは11月12日(木)に祝います。

ダンテラス

2020年11月12日(木)

ダンテラスでは、富と繁栄を具現する女神マハーラクシュミーとクベーラ神を崇拝します。金貨などの黄金や、金色の果物、花、布などをグルにささげるのが伝統です。黄金をささげる象徴として、多くのシッダ・ヨーギはダクシナーをささげます。

*インドでは、ダンテラスは11月13日(金)に祝います。

ナラク・チャトゥルダシー

2020年11月13日(金)*

この日、クリシュナ神が悪魔ナラカに打ち勝ちました。それは、ナラク・チャトゥルダシーの日に油で沐浴する儀式をして、シュリー・ラクシュミーと聖なるガンジス川からの祝福を受ける伝統です。インドでは日の出前の、星がまだ空に見える時間にこの沐浴をすることは、聖なるガンジス川で沐浴することと同じであると信じられています。

ナラク・チャトゥルダシーの夜は、インドの伝統的な暦であるパーンチャーンガによると、1年で3日ある最も吉兆な夜の中の1夜です。

*インドでは、ナラク・チャトゥルダシーは11月14日(土)に祝います。

ディーパーヴァリー

2020年11月14日(土)

ディーパーヴァリーは、ラーマ神が妻のシーターと弟のラクシュマナと共にアヨーダヤーに戻ったことを記念するものです。彼らの14年間の亡命は、ラーマ神とその軍隊が悪魔ラーヴァナを打ち負かしたことで終わりました。アヨーダヤーの人々は自分たちの王が帰還する喜びに満ちたお祝いに、土製のランプで彼の通る道を照らしました。アヨーダヤー中がディーヤーで飾られました。

ディーパーヴァリーは、終わりと新たな始まりの両方の時であり、友情、寛容、善意の精神で満たされています。この日、女神マハーラクシュミーが崇拝されます。彼女は、整頓された清潔で美しい場所に住みます。

彼女を迎えるために、人々は家や仕事を掃除し、飾り付けをします。また、特別な食べ物を用意し、プージャーをし、そして精神修行を行うことでマハーラクシュミーをたたえます。

*インドでは、ディーパーヴァリーは11月15日(日)に祝います。

インドの新年

2020年11月15日(日)

グジャラート州、そしてマハーラーシュトラ州の一部では、インドの新年はディーパーヴァリーの翌日に祝われています。この日は新しい始まりの活気にあふれたエネルギーで満たされています。そしてそれは1年の中で3日半ある最も吉兆な日の中の1日です。意図と決意を明確にし、友情を新たにし、争いを解消する時です。

この日、人々は新しい服を着て、贈り物やお菓子を交換し、年長者たちからの祝福を願います。ビジネス関係者は新しい帳簿を始めることによってこの新しい始まりをたたえます。帳簿を清算することは、マハーラクシュミーが入る空間を作るということです。

伝統的に、この日は新しい年にやりたいことに手を付ける日です。シッダ・ヨーガの道では、私たちはサーダナーへの決意を定め、精神修行に取り組み、シッダ・ヨーガの教えを与えてくれるシュリー・グルに感謝することで、インドの新年を祝います。

*インドでは、インドの新年は11月16日(月)に祝います。

